

子どもの心をまるごとつかむ

カズヤ君は発達遅滞のうえに、難聴、乱視のある子どもでした。このカズヤ君と私との出会いは、カズヤ君が二年目の保育を受ける三歳児の時でした。

カズヤ君の楽しみは、毎週金曜日に田舎のおばあちゃんのところへ帰れることでした。

月曜日の朝、カズヤ君がお父さんと一緒に登園してくると、園にはざわめきが起きました。虫や小動物の大好きなカズヤ君が、おたまじゃくし、どじょう、ザリガニなどのウジウジヨシしたバケツを持ってきたのです。情報はたちまち園中に流れ、カズヤ君は、子どもたちのヒーローとなりました。

また、保育園の園庭にある畑を耕

すと、土の中から幼虫が出てきます。それが楽しくてカズヤ君はクワを持ちます。いつしかカズヤ君は『虫はかせ』になっていました。

カズヤ君のクラスに、ヤスオ君という脳性マヒの障害を持った友だちがいました。ヤスオ君は、移動が困難なので、はじめは一歳下の年齢のクラスで保育を受けていましたが、途中から同じ生活年齢のクラスになりました。やがて二人のご両親たちは、一緒に地域の学校に就学させてやりたいという願いを持つようになっていました。この願いを実現するために、就学前三年間の保育をどう作るかが、私たちの課題でした。

私たちは、保育園の生活環境を子ども主体に作りかえることから始め



川で遊ぶ

ました。子どもたちにとって大切なものは、『自然』であり、土・水・太陽・緑・四季折り折りの花でした。土を耕し、種をまくと、作物は芽をふき、季節の小動物がたえることなく集まってきました。子どもたちは、